

学校法人東京聖栄大学 平成 31 年度事業計画

短大を改組し平成 17 年 4 月に開学した東京聖栄大学は、平成 31 年度、15 期目の新入生を迎えます。この間の 18 歳人口は 137 万人から 118 万人へと 14% も大きく減少していますが、本学においては、平成 30 年度まで、8 年間連続して学部定員を充足し、平成 31 年度新入生の定員確保についても、一定の目処が立つ状況となりました。

7 年に一度の大学機関別認証評価（第三者評価）については、新基準に基づく審査を平成 30 年度に受審しました。早急に対応すべきご指摘も頂戴いたしましたが、最終的に「基準に適合している」との評価をいただくことができました。また、本学の「優れた点」として 3 点が明記・紹介されたことは、真剣誠実に、教職協働でより良い学生教育を希求してきたことの証左と捉えております。

今後も弛むことなく努力を重ね、附属二校（専門学校・幼稚園）とともに、社会からの信頼をさらに高められるよう、平成 31 年度は特に以下の事項を重点として事業を推進してまいります。

＜全体重点事項＞

- 1 『学校法人東京聖栄大学 第Ⅲ期中長期計画（2020-2024）』の策定
- 2 「食（又は食品）に係る研究所」の設置検討
- 3 高等教育無償化制度、幼児教育無償化制度への適切な対応
 - ・大学、調理師専門学校：「機関要件確認」への対応（無償化の対象となる高等教育機関かどうかの要件確認を受ける国制度）等
 - ・幼稚園：国、県の制度設計を踏まえて対応を検討
- 4 認証評価受審における指摘事項の改善

＜各部門重点事項＞

- 1 東京聖栄大学
 - ・教育の質保証への継続した取組み（FD 活動、自己点検活動、カリキュラムの点検・見直し、3 ポリシーの点検、成績評価分布の把握と適切な学生指導、シラバスの更なる見直し 等）
 - ・適正かつ強固な教員組織を編制するための継続努力
 - ・就職活動支援、各種資格取得支援（学生の主体的努力を踏まえた指導・支援）
 - ・管理栄養士国家試験指導（高い合格率の維持）
 - ・定員確保努力の継続、適正な入試の実施
 - ・学長リーダーシップに基づく大学運営と補佐体制（大学運営会議）

2 附属学校

1) 調理師専門学校

- ・学校運営、教育活動の向上に向けた「自己評価」、「学生・生徒等関係者評価」の実施と、評価に基づく改善活動の展開
 - *大学及び法人本部からは、評価や教育改善への適切なサポートを行う。
- ・学生生徒募集の努力（幅広い入学生の募集努力、情報発信の創意工夫努力 等）
- ・愛校心を育む学校行事の検討・実施、卒業生との連携
- ・魅力ある調理師の養成、東京聖栄大学との連携推進
- ・施設の適切な維持管理

2) わたなべ幼稚園

- ・良質な幼児教育の継続実施、保護者の就労ニーズへの対応（預かり保育）
- ・満3歳児保育への対応（混合・2クラス編成）
- ・安全でおいしい手作り給食の実施、「食育」の推進（大学との連携）
- ・園児の安全安心と保育の質確保のための適正な人員配置
- ・施設の適切な維持管理、園バスの買替（1台）

3 管理運営

- ・理事会による学園全体のガバナンスと適正運営（日常業務については常務理事会）
- ・健全な財務の維持
- ・幼稚園改築のための将来所要経費 積立ての継続（2号基本金及び減価償却費）
- ・日本私立大学協会推奨『ガバナンス・コード』の制定検討
- ・『東京聖栄大学 SD 実施方針』及び年度計画に基づくSDの推進、人材育成
- ・PC更改（教職員用等140台予定）・データベースシステム更改等、学内LAN環境の整備
- ・法令遵守（各種法令等に沿った規程整備。働き方改革関連法への適切な対応 等）
- ・防災対策
 - （従来からの震災対策に加え、救助用ボート購入等水害への備えを充実・強化）

以上